

■■メールマガジン「静岡県防災」第14号■■

## 「防災の日」のはじまり

### ●防災にとって特別な日

9月1日は「防災の日」、多くの皆さんは関東大震災（1923年（大正12年））が発生した日だということをご存じのことと思います。

その他にも9月1日は、暦の上では二百十日に当たり台風シーズンとなることや、「伊勢湾台風」（1959年（昭和34年））によって戦後最大の被害があったことが契機となり、地震や風水害に対する心構え等を育成するため、1960年（昭和35年）に、9月1日を「防災の日」とすることが閣議了解されたことがはじまりです。

さらに1982年（昭和57年）からは、9月1日を含む一週間を「防災週間」と定め、国や自治体、防災関係機関等が防災思想普及のための行事や訓練等を行っています。

### ●関東大震災の特徴

皆さんは関東大震災の被害をご存じでしょうか。

死者・行方不明者は推定10万5,000人で、明治以降の日本の地震災害としては最大規模の被害となっています。

地震発生が昼食時であったため、食事の準備に火を使っていた家庭が多く、台風の余波による強風も影響して大規模な火災が発生しました。

### ●下町の悲劇

当時、墨田区の陸軍被服省跡地（軍服などを作る工場）には、多くの住民が家財道具を抱えて避難してきましたが、強風にあおられた炎が四方から迫り、その火の粉が持ち込まれた家財道具などに燃え移りました。

激しい炎は巨大な炎の竜巻、火災旋風となり一気に人々を飲み込み、この地だけで3万8,000人ももの尊い命が失われました。

この地域を含む東京の下町は、22年後の1945年（昭和20年）3月10日未明、大空襲という戦禍をも受けることとなります。

### ●「東京都慰霊堂」と「復興記念館」

現在、両国国技館からほど近い被服省跡は「横網町公園」として整備され、園内の「東京都慰霊堂」では、震災と戦災合わせて約16万3,000人のご遺骨が安置されています。

また、併設の「東京都復興記念館」の溶解した車両をはじめとする様々な被災物や遺品などの展示からは、震災の恐ろしさを感じることができます。

【参考】東京都復興記念館 <https://tokyoreikyokai.or.jp/museum/history.html>